

# 中国の日本語教科書における「行為要求」の 「～てくださる」の扱いに関する考察

—コーパス調査の結果と照らして—

Consideration on the treatment of “*Tekudasai*” for “Request for action” in  
Japanese textbooks used in China—In light of corpus survey results—

陳 蒙

CHEN Meng

**提要** 本論文把在请求时使用的「～てくださる」定义为「行為要求」的「～てくださる」，利用语料库调查了其实际的使用状况。在此基础上考察了在中国使用的日语教科书中关于「行為要求」的「～てくださる」的语法说明和例句，指出了其中存在的问题，并提出了解决方案。

**キーワード**：中国人学習者，授受補助動詞，行為要求，使用実態，日本語教科書

## 目次

1. はじめに
2. 「行為要求」の「～てくださる」の機能についての本稿の立場
3. コーパスによる使用実態調査
4. 教科書調査
5. 使用実態調査と教科書調査に基づいた考察
6. おわりに

### 1. はじめに

授受補助動詞は複雑な体系を持っており、中国人日本語学習者にとって習得が困難な文法項目の一つである。授受補助動詞「～てくださる」の使用には、依頼などに使われる (1) (2) のようなものとそれ以外の場面に使われる (3) のようなものが存在することが観察される。本稿ではこの二つの用法をそれぞれ「行為要求」と「叙述」と呼ぶ。

(1) 山下くん、ちょっと来てください。

(2) 先生、推薦状にサインしてくださいませんか。<sup>1)</sup> — 「行為要求」

(3) 先生は推薦状にサインしてくださいました。 — 「叙述」

従来の先行研究は、「叙述」に注目して、学習者の使用状況を考察した上で指導方法の提出

を目指すものが数多くあるのに対し、「行為要求」に関わる研究が少ないように思われる。しかし、筆者は日本語教師として(4)と(5)のような学習者の不適切な使用を耳にしたことがある。

(4) 先生、ここにサインしてください。

(5) 先生、これはおいしいから、召し上がってみてくださいませんか。

(4)と(5)のような不適切な使用は(4)では聞き手が先生であるため、より丁寧な依頼表現例えば「～てくださいませんか」などが必要であると考えられる。(5)では「依頼」の機能しか持っていない「～てくださいませんか」が「勧め」に使われている。)日本語教育現場で「行為要求」に関する指導が必ずしも適切に行われていない点があることを示唆しているのではないだろうか。白川(2002)によると、教科書の誤った教え方、あるいは、不完全な教え方が学習者の誤用や非用を生む要因になる。特に中国における日本語学習者にとっては、教科書は大きな影響を与えるインプットとして無視することができず、重要な位置を占めている(郭2017, 李2019)。従って、中国の日本語教育において「行為要求」がどう扱われているかを探る手がかりとして、中国で使われている日本語教科書における提出状況や記述などを検討する必要があると考えられる。

一方、大規模なコーパスの利用が可能になるに伴い、コーパスにおける使用実態と教科書の扱いを対照する研究が数多くなされるようになった。例えば、森(2012)では、「日本語記述文法において構築されてきた体系が日本語教育文法として妥当であると言えるか」という問題意識から、コーパスを用いて現実の言語使用という観点から日本語教科書に見られる使役の扱いが妥当であるか検証されている。また、郭(2017)は、「教科書の記述が母語話者の使用実態を十分に反映していなかったり、明白に記述されていなかったりすれば、学習者の日本語の産出に母語話者とのギャップを生じ、さらに不適切な使用を招く」と指摘した上で、「と」条件文の母語話者使用実態に基づいて教科書の記述を検討している。しかしながら、授受補助動詞については、このような分析が管見の限りまだ行われていないように思われる。筆者は日本語教師として、そのような研究の必要性が非常に高いと考える。

以上述べてきた問題意識から、本稿では(1)(2)のような「行為要求」の「～くださる」<sup>2)</sup>を取り上げ、それらの使用実態と、中国の日本語教科書における扱いを考察する。その結果を踏まえ、中国における日本語教育現場で「行為要求」の「～くださる」を指導する際の留意点について提言したい。以下、2節では「行為要求」の「～くださる」の機能について本稿の立場を述べる。続いて、3節ではコーパスを用いて使用実態を調査し、4節では教科書における扱いを考察する。次に、5節では教科書における問題点を指摘した上で改善案を検討する。最後に6節では本稿の結論をまとめ、今後の課題を述べる。

## 2. 「行為要求」の「～てください」の機能についての本稿の立場

「行為要求」の「～てください」の分類にかかわる研究としては、柏崎(1991)、姫野(1997)、高梨(2011)等が挙げられるが、本稿では使用実態調査を目的とするため、分類基準が明確な高梨(2011)を参照し、調査を行う。高梨(2011)では、受益者、話し手の強制力と聞き手の決定権の強弱に基づいて行為要求の分類を図1のように示している。

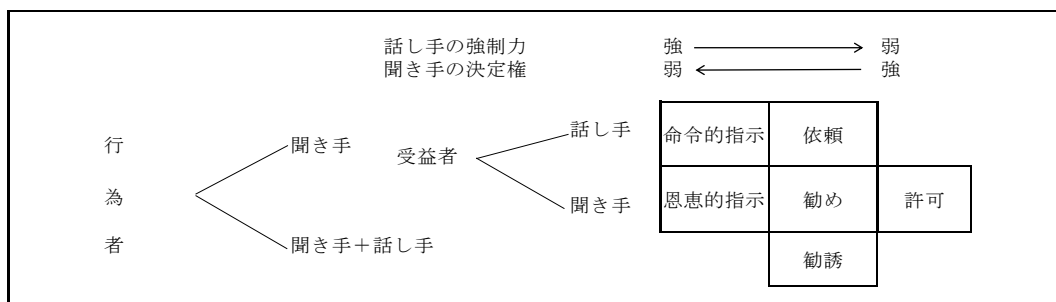


図1 行為要求の分類 (高梨2011:3)

また、「～てください」に関して以下の例文(6)－(9)はいずれも「～てください」を用いながら、行為要求としての機能はそれぞれ異なっていると述べている。

- 命令的指示  
(6) [客がタクシーの運転手に] 次の信号を右に曲がってください。
- 恩惠的指示  
(7) [歯科医が患者に]  
今日の治療は終わりです。今から2時間ぐらいは飲食を控えてください。
- 依頼  
(8) [通行人が他の通行人に] すみません、ちょっと道を開けてください。
- 勧め  
(9) [家の主人が客に] どうぞ夕食を召し上がっていただきます。

(高梨2011:3, 下線は筆者)

なお、「命令的指示」と「恩惠的指示」は同じ「指示」であり、つまり話し手の強制力が高いという点で共通している。日本語教育現場でそれらを別々に提示すると学習者の負担になると考えられるため、本稿では考察する際にその二つを合わせて「指示」として扱うことにする。

## 3. コーパスによる使用実態調査

### 3.1 調査するコーパスと検索方法及び結果の概要

#### 書き言葉コーパス

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ(NT2.4))における「国会会議録」を除外した全データを対象に、中納言を用いて短単位検索を行った。

検索条件：「前方共起1：キーから2語、品詞の大分類が動詞、AND活用形の大分類が連用形，キー：語彙素が「下さる」。

検索結果：合計52,450件。52,450件から2,500件をランダムにピックアップして、調査対象とした。

### 話し言葉コーパス

現時点で話し言葉コーパスは数が非常に少ない。できるだけ様々な場面から例文を数多く収集し、話し言葉における使用傾向を観察するために、以下①と②に示すコーパスと検索方法で調査を行う。

①『名大会話コーパス』（以下では『名大』）、『現日研・職場談話コーパス』（以下では職場）、中納言を用いて短単位検索を行った。検索条件はBCCWJと同様である。

検索結果：『名大』287件（除外1件<sup>3)</sup>）、『職場』121件（除外2件<sup>4)</sup>。

②『談話資料日常生活のことば』

エクセルファイル上で、それぞれ「くださ」「下さ」で検索した。

検索結果：80件。そのうち手作業で17件<sup>5)</sup>を除外した。

合計：①と②を合わせて468件を調査対象とした。

このように書き言葉コーパスと話し言葉コーパスで収集した例を「行為要求」と「叙述」に分けた上で、「行為要求」の「～てくださる」を機能によって分類する。次では、調査結果を述べる。

## 3.2 調査結果

### 3.2.1 書き言葉における「行為要求」の「～てくださる」の使用実態

書き言葉における「～てくださる」の用法分布は「行為要求」2,342件、「叙述」158件となっている。さらに、全体的に「行為要求」の「～てくださる」が圧倒的に多く現れており、全体の95%近くを占めていることが分かった。つまり、補助動詞の「～てくださる」は主に「行為要求」として使われていると言えるだろう。「行為要求」の2,342件をさらに「依頼」「勧め」「指示」に分類した結果は図2のようになっている。

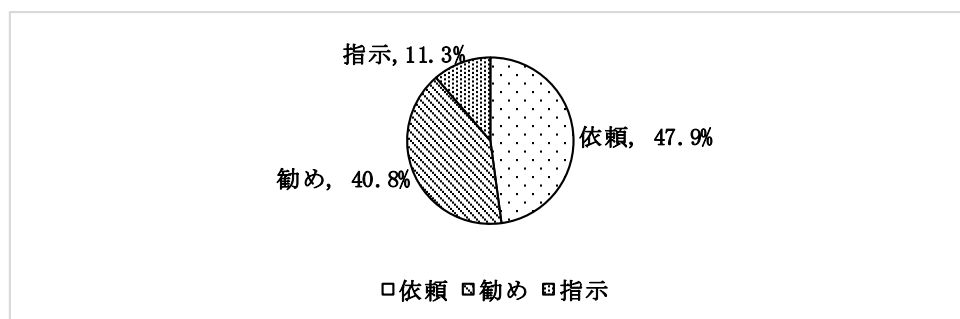


図2 書き言葉における「行為要求」の機能分布

図2からわかるように、書き言葉における「行為要求」の「～てくださる」は、全体からみれば、3機能が「依頼」「勧め」「指示」の順で多く出現している。「依頼」が全体の半分近くを占めており、その次に「勧め」が全体の40%以上に達している。一方、「指示」は全体の10%ぐらいしか現れておらず、第二位の「勧め」を大きく下回る。次では話し言葉における用法及び機能分布を見ていく。

### 3.2.2 話し言葉における「行為要求」の「～てくださる」の使用実態

話し言葉における「～てくださる」の用法分布は「行為要求」395件、「叙述」73件となっている。さらに、全体的に「行為要求」が全体の80%を上回り、「叙述」と比べればはるかに多く現れていることが分かった。「行為要求」の395件をさらに「依頼」「勧め」「指示」という機能別に分類した結果を図3に示す。

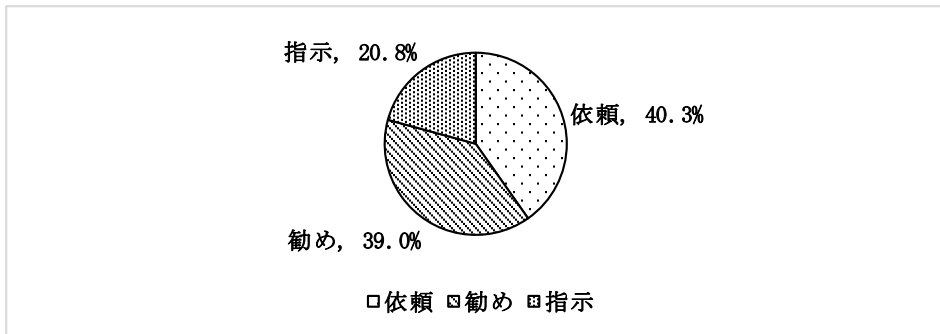


図3 話し言葉における「行為要求」の機能分布

図3が示すように、話し言葉における「行為要求」の「～てくださる」は、全体的に3機能が「依頼」「勧め」「指示」の順で多く出現している。「依頼」と「勧め」はほぼ同じ程度出現しており、それぞれ全体の40%ぐらいを占めている。一方、「指示」は書き言葉と比べれば多く出現しているが、全体の20%に過ぎず、「依頼」または「勧め」の約半分にとどまる。

### 3.2.3 調査結果のまとめ

以上、書き言葉コーパスと話し言葉コーパスにおける「～てくださる」の使用実態を調査した。その結果をまとめると、以下の2点が明らかになった。

- ① 母語話者によって産出された「～てくださる」においては、「叙述」より、「行為要求」のほうが圧倒的に多い。
- ② 「行為要求」の「～てくださる」は機能別にみると、書き言葉と話し言葉のいずれにおいても「依頼」が最も多く現れており、「勧め」がその次に多く現れて、いずれも全体の約40%を占めている。それに対して、「指示」は書き言葉においても話し言葉においても全体の20%前後に過ぎず、「依頼」または「勧め」の半分程度にとどまっている。

以上、コーパス調査で明らかになった使用実態は中国で使われている日本語教科書に反映

されているのだろうか。書き言葉においても話し言葉においても「指示」より多く出現している「勧め」に関する説明はあまり取り上げられていないのではないだろうか。以下では中国の日本語教科書における「行為要求」の「～てくださる」に関する扱いを機能と形式に注目して考察する。

## 4. 教科書調査

### 4.1 調査する教科書と調査の内容

#### 調査する教科書

中国の高等教育機関で日本語を主専攻として勉強している学習者に広く使用されている『日語総合教程』（第1冊―第4冊）、『新編日語（重排版）』（第1冊―第4冊）、『総合日語（改訂版）』（第1冊―第4冊）、『新総合日本語基礎日語（第2版）』（第1冊―第4冊）という4種計16冊の日本語教科書<sup>6)</sup>を考察対象とする。

#### 調査の内容

機能と形式に焦点をあてて、以下の2点を調査する。

- ① 各教科書における「行為要求」の「～てくださる」に関する扱いがどうなっているのか。
- ② それらの扱いが使用実態を反映しているのか、反映していないことがあればどのような点であるのか。

### 4.2 調査結果

各教科書の全4冊の中で、「行為要求」の「～てくださる」が文法項目として提出される課における文法説明と例文提示を概観して整理した。その結果から、以下の2点が明らかになった。

- ① どの教科書も「～てください」という形式を文法項目として提出している。しかし、「～てください」の「勧め」の機能に触れた教科書は『総合日語』（第3冊第5課）のみである。
- ② どの教科書も「～てくださいますか」という形式を提出している。「～てください」と同じ課で提出する教科書もあれば、異なる課で別々に提出する教科書もある。それに関する説明を教科書別に見た結果、「～てくださいますか」は「～てください」の丁寧形であると説明している教科書もあれば（『日語総合教程』と『新編日語』）、「依頼」を丁寧に表すと説明している教科書もある（『総合日語』と『新総合日本語基礎日語』）ということである。

さらに、4種の教科書における「～てください」を初めて導入する際の文法説明と例文提示を機能別に整理して、その結果を表1にまとめる。

表 1 各教科書における「～てください」を導入する際の状況

教科書	導入する課 (全体の課数)	「依頼」 の説明	「依頼」 の文	「指示」 の説明	「指示」 の文	「勧め」 の説明	「勧め」 の文
日語総合 教程	第1冊 第11課 (全16課)	○	○	○	○	×	○
新編日語	第1冊 第10課 (全16課)	○	○	○	○	×	○
総合日語	第1冊 第12課 (全15課)	○	○	×	○	×	×
新総合 日本語 基礎日語	第1冊 第13課 (全16課)	○	○	○	○	×	○

表1から「～てください」がすべて初級前半あたりで導入されることが観察される。そして、導入される課における扱いについては、以下の2点が明らかになった。

- ①『総合日語』では「依頼」「勧め」「指示」という3機能のうち、「依頼」に関する説明しかなされていない。一方、「指示」に関する説明がなされていないにもかかわらず、「指示」の例文が取り上げられている。そして、「勧め」に関しては、説明も例文も見られない。
- ②『総合日語』以外の教科書は「依頼」と「指示」に関する説明はなされているが、「勧め」に関する説明はなされていない。にもかかわらず、「勧め」の例文が取り上げられている。つまり、「勧め」の例文が取り上げられているにもかかわらず、「勧め」に関する文法説明が見られなかった。

例えば、以下の例文(10)－(12)はそれぞれ『日語総合教程』、『新編日語』、『新総合日本語基礎日語』における「～てください」を導入する課で取り上げられている文であり、いずれも本稿における分類基準での「勧め」の文である。

(10) 学生A: 王さん、電子辞書を持っていますね。

学生B: ええ、持っています。小さくてどこでも使えますから便利です。どうぞ、使ってください。(『日語総合教程』第一冊:142, 下線は筆者)

(11) (読解文[訪問に関するアドバイス]) うちに入る時はベルやチャイムを鳴らしてください。(『新編日語(重排版)』第一冊:137, 下線は筆者)

(12) 中村さんも胃がよくないでしょう。一度、病院に行って検査を受けてみてください。(『新総合日本語基礎日語(第2版)』第1冊:216, 下線は筆者)

## 5. 使用実態調査と教科書調査に基づいた考察

以上、コーパスにおける使用実態と教科書における扱いをみてきた。ここでは、その結果に基づき、教科書の扱いにおける問題点及び指導する際の留意点と解決策を検討する。

### 5.1 教科書の扱いにおける問題点

機能に関する説明と例文提示、「～てください」と「～てくださいませんか」の扱い方とい

うことから、教科書における扱いの問題点を以下に指摘する。

### 機能に関する説明と例文提示に関わる問題点

「～てください」の機能に関する説明が不十分である、また、説明がなされている機能にあてはまらない例文が取り上げられている点が問題だと思われる。これは、学習者の各機能に対する認識に混乱を生じ、さらに、「～てください」の不適切な使用につながる可能性があると考えられる。

そして、今回調査した4種の教科書では、いずれも発話の状況に関する情報が少なく、「～てください」の機能が分かりにくい例文が数多くあげられていることがみられた。例えば、以下の例文(13)、(14)は発話場面や話し手と聞き手との関係により、「～てください」の機能が「依頼」と「指示」のいずれにも解釈することができる。

(13) それを見せてください。(『総合日語』第一冊:243, 下線は筆者)

(14) ここに名前と住所を書いてください。

(『新総合日本語基礎日語』(第2版)第1冊:211, 下線は筆者)

このような発話場面や話し手と聞き手との関係が分からないため、「～てください」の機能がはっきりしていない例文があげられたことは、学習者が「～てください」の各機能を理解する際に困難をもたらすのではないかと考えられる。

また、『総合日語』では、「～てください」が導入される際に「依頼」に関する説明のみがなされているが、「指示」の例文が取り上げられている。そのため、学習者が「指示」の文を「依頼」と受け止めるおそれがあるのではないかとと思われる。さらに、「勧め」に関する説明は、導入される課ではなく、同じく「勧め」の機能を持つ複数の形式がまとめて提出される課でなされている。このような提出のしかたは学習者の「勧め」の機能に対する理解に役立つと思われるが、取り上げられている例文の数(1文のみ)を増やす必要があると考えられる。

### 「～てください」と「～くださいませんか」の扱い方に関わる問題点

新屋・姫野・守屋(1998)は「てください」「お～ください」「てくださいませんか」が担う中心的な機能を表2のように示している。

表2 「てください」「お～ください」「てくださいませんか」の機能

形式	指示	依頼	勧め
てください	○	○	○
お～ください	○	×	○
てくださいませんか	×	○	×

(新屋・姫野・守屋 1998 : 57)

表2が示す通り、「～てください」は「指示」「依頼」「勧め」という3機能を持っているのに対し、「～くださいませんか」は「依頼」専用の形式である。そのため、『日語総合教程』



中国の日本語教科書における「行為要求」の「～てくださる」の扱いに関する考察と『新編日語』のように二つの形式のもつ機能の違いに触れず、「～てくださいますか」を「～てください」の丁寧形であると説明するのは妥当性に欠けており、学習者の不適切な使用につながる可能性があると思われる。

## 5.2 各教科書を用いて指導する際の留意点

以上、今回の調査対象となる4種の日本語教科書における「行為要求」の「～てくださる」の扱いを考察してきた。その結果を踏まえて、各教科書を用いて「行為要求」の「～てくださる」を指導する際の留意点について以下に提案する。

### ● 『日語総合教程』

#### ① 「～てください」が導入される課（第1冊第11課）：

「勧め」の例文が取り上げられているにもかかわらず、「勧め」に関する文法説明が見られないため、「勧め」の機能について補充して説明する必要がある。

#### ② 「～てくださいますか」が導入される課（第2冊第5課）：

「てくださいますか」と「てください」は持つ機能が異なるため、「～てくださいますか」は「依頼」の「～てください」の丁寧形であると明示的に説明する。

### ● 『新編日語』（第1冊第10課）と『新総合日本語基礎日語』（第1冊第13課）

「勧め」の例文が取り上げられているにもかかわらず、「勧め」に関する文法説明が見られない。従って、「勧め」の機能について補充して説明する必要がある。

また、『新編日語』を用いる場合「てくださいますか」と「てください」は持つ機能が異なるため、「～てくださいますか」は「依頼」の「～てください」の丁寧形であると明示的に説明する。

### ● 『総合日語』

#### ① 「～てください」が導入される課（第1冊第12課）：

文法説明では「依頼」のみが提示されているため、「勧め」と「指示」について補充して説明する必要がある。そのうえで、発話場面や話し手と聞き手との関係が明らかで「勧め」の機能がわかりやすい例文を補充して提示する。

#### ② 「勧め」の機能を持つ複数の形式が提出される課（第3冊第5課）：

例文数が少ないため、各形式の例文を、数を増やして提示する。

さらに、4種の教科書にも発話の状況に関する情報が少なく、「～てください」の機能が分かりにくい例文があげられているため、発話場面や話し手と聞き手との関係が明らかで機能が明確である例文を補充して提示する必要がある。

## 6. おわりに

以上、本稿では、まずコーパスを利用して「行為要求」の「～てくださる」の使用実態を「依頼」「勧め」「指示」という機能の面から明らかにした。次に、この使用実態と照らし、

中国で使用されている日本語教科書における「行為要求」の「～てくださる」の扱いを分析した。最後にその結果を踏まえ、各教科書の扱いにおける問題点を指摘し、指導する際の留意点を提言した。さらに、今回の調査結果は今後新しい日本語教科書を作成する際に、「行為要求」の「～てくださる」の扱いと、例文や練習の作成などを考えるにあたって示唆を与えるものと考えられる。

授受補助動詞「～てくださる」に関しては、さらに「叙述」に関する使用実態と教科書における扱いを考察して検討する必要があると思われるが、それは今後の課題としたい。

## 注

- 1) 授受補助動詞を用いた「行為要求」の形式は、意味機能として文法化されたものが多いが、文法形式の体系を重視する中国における日本語教育現場で形態的に授受補助動詞の体系の中に位置づけられて扱われている。本稿は中国における日本語教育への貢献を目指すため、このような形式を授受補助動詞の体系の中に位置づけて捉える立場をとる。
- 2) 補助動詞として動詞のテ形について「～てくださる」を考察対象とするため、「お～ください」と「～ないでください」は研究対象から外す。
- 3) 除外した例は授受動詞（本動詞）の例1件である。
- 4) 除外した例は授受動詞の例1件、前文脈もしくは後文脈に文字化できなかった部分がある例1件である。
- 5) 除外した例の内訳は授受動詞の例1件、前文脈もしくは後文脈に文字化できなかった部分がある例2件、「お～ください」の例11件、「～ないでください」の例3件である。
- 6) 中国で使用されている日本語教科書に関しては、李（2019）は『総合日語』『新編日語』『新総合日本語基礎日語』『新中日交流標準日本語』『日語総合教程』が「発行部数が最も多く、使用範囲が比較的広いものである」と述べている。本稿ではその5種類のうち、高等教育機関で日本語を主専攻として勉強している学習者に使われている4種類を調査対象とする。

## 資料

### 1-コーパス (<http://chunagon.ninjal.ac.jp/>)

- 1) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（2018年12月19日アクセス）  
『名大会話コーパス』（2018年4月29日アクセス）  
『現日研・職場談話コーパス』（2019年5月25日アクセス）
- 2) 現代日本語研究会（2016）『談話資料日常生活のことば』ひつじ書房

### 2-教科書

- 『日語総合教程』 上海外語教育出版社  
『新編日語（重排版）』 上海外語教育出版社  
『新総合日本語基礎日語（第2版）』 大連理工大学出版社  
『総合日語（改訂版）』 北京大学出版社

## 参考文献

- 郭 聖琳 (2017) 「と」条件文の母語話者使用実態について—教科書の記述を検討するために—  
『国文論叢』第51号、神戸大学文学部国語国文学会:88-72
- 柏崎雅世 (1991) 「(て) 下さい」について—行動要求表現における機能分析—『日本語学科年報』  
13、東京外国語大学:81-98
- 白川博之 (2002) 「記述的研究と日本語教育」『日本語文法』2 (2)、日本語文法学会:62-80
- 新屋映子・姫野伴子・守屋三千代 (1998) 「教科書の落とし穴-4 「～てください」うれしいのは  
だれ？」『月刊日本語』11 (7)、アルク:56-59
- 高梨信乃 (2011) 「行為要求について—日本語教育における問題—」『神戸大学留学センター紀要』  
(17)、神戸大学:1-17
- 姫野伴子 (1997) 「行為指示型発話行為の機能と形式」『埼玉大学紀要教養学部』33 (1)、埼玉大  
学教養学部:169-178
- 森 篤嗣 (2012) 「使役における体系と現実の言語使用—日本語教育文法の観点から—」『日本  
語文法』12 (1)、日本語文法学会:3-19
- 李 偉 (2019) 「中国で出版されている日本語教科書における受身の扱いをめぐる考察」『2018年  
度日本語教育学会支部集会予稿集』:16-21